

小さいお子さまはつらくてもうまわりの人に伝えられ
ません。お子さまの症状に気がついたら早めに医師に
相談しましょう。

また、家族全員で気をつけましょう！

インフルエンザはウイルスによって引き起こされ、
人から人へうつります。毎年12月～3月に流行します。



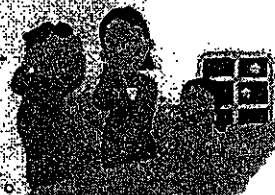
インフルエンザCHECK

- 地域や集団でのインフルエンザの流行
- 急激な発熱(※前触れとしての鼻水や咳、くしゃみなどが無く、
急に高熱になったことが多くあります。)
- 38℃以上の発熱・悪寒(寒気がする)

この3つに該当する場合、インフルエンザの可能性ががあります。ご自分の判断で、お家に
ある風邪薬や解熱剤をお子さまやご自分に用いることは避けてください。

● 夜間・休日、熱がでたら...

夜間はさむいですから
家で安静にして、
翌日早めに病院へ行きましょう。



※インフルエンザは命にかかわり、インフルエンザが
流行するシーズンはお亡くなりになる方が急増するとも言わ
れています。インフルエンザ治療薬は予防投与ができる場合が
ありますので早めに医師に相談してください。

● 救急医療情報はインフルエンザ情報サービスホームページをご覧ください。
<http://influenza.eiaa.ne.jp/emergency/index.php>

ここに注意して!

● 子供はインフルエンザに弱い

インフルエンザは、普通の風邪とは異なり、重症化することがある
病気です。特に抵抗力が未発達の小さなお子さまがかかると、
肺炎や脱水症等の合併症を起こし入院することもあり、インフル
エンザ脳症*という重大な合併症を引き起こすこともあります。

※インフルエンザ脳症

インフルエンザウイルスの感染が引き金となり、突然の高熱から、
1～2日以内に昏睡などの意識障害を引き起こします。

● 大人も要注意!

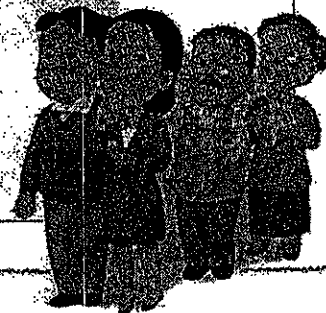
インフルエンザは普通の風邪と違って怖い感染症です。特にお子
さまや高齢者などまわりの人につつさない配慮も必要です。忙し
くて休みにくいお父さん、お母さんには予防と早めの治療が大切
です。日頃から体調を整えて、抵抗力をつけておきましょう。

● おしいちゃん、おばあちゃん気をつけて!

高齢者にとってインフルエンザは命にかかわり、インフルエンザが
流行するシーズンはお亡くなりになる方が急増するとも言わ
れています。インフルエンザ治療薬は予防投与ができる場合が
ありますので早めに医師に相談してください。

● インフルエンザには予防が大切

栄養と休養を十分とり、入こみを避け
ましょう。外出するときはマスクをつ
けましょう。また加湿器などで室内を
適度な湿度に保ちましょう。外から
帰ってきたら、まずうがいや手洗いを
しましょう。



病院ではインフルエンザか風邪かを診断し、治療します。

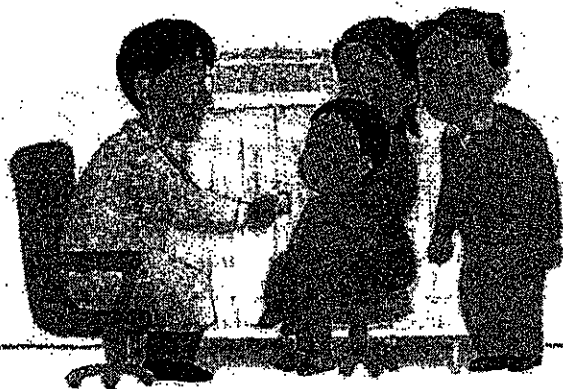
問 診

インフルエンザの流行期に、急な発熱や悪寒、全身症状などのインフルエンザ特有の症状が認められる場合は、問診だけでもある程度診断をつけることができます。その場でインフルエンザがどうか診断できる「迅速診断キット」もあります。

治 療

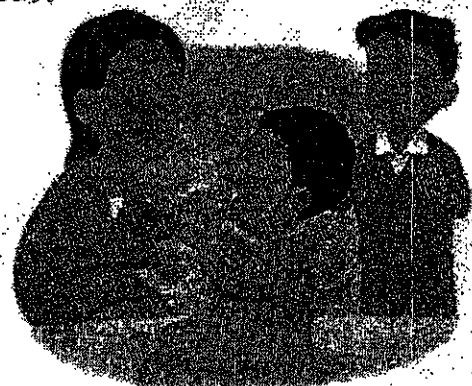
インフルエンザと診断された場合、インフルエンザ治療薬などが用いられます。

- ③ インフルエンザ治療薬を服用すると異常言動が起こると聞いたのですが？
- ④ インフルエンザの患者さんでは、治療薬服用の有無にかかわらず異常言動がみられる場合があります。服用することにより増加するというデータは、現在のところ確認されておりません。



インフルエンザの治療には、主にインフルエンザウイルスの増殖を抑えるお薬が使われます。インフルエンザウイルスは、増殖するスピードが非常に速く、ひとつのインフルエンザウイルスが1日で100万個にまで増えると言われていています。そのため、インフルエンザ治療薬は、インフルエンザウイルスが増殖してしまう前に服用することが大切です。できるだけ早期に服用することで、症状の悪化や長期化を防ぐことができ、お薬を服用しないときよりも早く熱が下がり、体が楽になります。

※インフルエンザ治療薬には、お子さまでも飲みやすいドライシロップ、カプセル、吸入薬などがあります。



ポイント!

インフルエンザのお薬は、発症してからできるだけ早い段階(2日以内)に服用を始めることで効果を発揮します。